Ａ－３　社会科の取り組み

(1)　読解力をどう捉えるか

学習指導要領では、中学校社会科の目標が下記のように記載されている。

> ① 広い視野にたって、社会に対する関心を高め、
> ② 諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な
> ③ 公民的資質の基礎を養う。

この目標は、本校の読解力としてとらえる５つの力（発想力・論理力・表現力・評価力・コミュニケーション力）に関わる学力ととらえることができる。

①は社会的事象に対する関心・意欲を高めることであり、目的意識を持って学習課題をとらえ自由に思い描く「発想力」と関わる。②は知識や経験を生かしながら、資料から情報を取り出し、社会的事象が持っているさまざまな面やいろいろな立場に立った角度から考察することであり、資料を分析し根拠を明確にしながら自分の考えを持つ「論理力」と関わる。③は自立し、他人や社会とよりよく関わる人間力を養うことであり、相手の立場に立って考える「コミュニケーション力」や自分の考えをわかりやすく伝えたり、見直したりする「表現力」「評価力」と関わる。

本校の読解力は興味を持ち、調べて、考え、表現する社会科の展開の中で位置づけられるものであり、社会科の４観点を総合した力であるということができる。

特に、多面的・多角的に考えるために、自分の考えを論理的に表現できることを重点に研究を進めた。工夫として、単元や授業の導入における課題設定の工夫や学び合いをめざしたグループによる協同学習や資料に基づいた自分の考えを書く場・発表の機会の設定に取り組んだ。

(2)　指導の実際

指導例１　意外性のある資料を活用して、課題設定の工夫を行う。

① 単元名　２年　世界と日本の人口

② 本時のねらい

日本の人口がどのように偏っているかを理解し、偏りのおこる背景について考え、人口が集中する理由について様々な面からまとめ、説明することができる。

③ 読解力向上の視点

【発想力】様々な資料をもとに、自由に疑問を持ち、課題を設定し、自分の考えを組み立てることができる。

④ 読解力向上のための工夫

課題設定の工夫

日本の人口の偏りとその偏りが起こる背景について、導入で興味・関心を高め、課題に対する意識を持たせ、さまざまな資料から多面的・多角的に考察させる。

⑤ 展　開

導入では、「住みよい県とはどこだろう」ということを全体に投げかけた。生徒からは「便利だから東京」など様々な答えを持ち反応を示した。その上で、東洋経済新報社の調査に基づくランキングである資料「住みよさランキング」を提示し、金沢市をはじめ北陸三県の多くの都市や能美市がランキングの上位に位置していることに気付かせた。予想に反して、１位は福井市で２、３位も生徒のよく知らない地方都市である。さらには、１０位以内に、金

沢市をはじめ、北陸三県の県庁所在地がランクインしていることが意外だという意見が出された。また、数多くの都市の中に自分たちの住む能美市が入っていることに驚き、興味を持った様子だった。

さらに、資料「日本の人口分布」「三大都市圏への人口集中」を提示、人口が集中している地域について考えた。生徒は、資料から太平洋ベルトにそって人口が集中していること、特に三大都市圏に人口が集中していることを読みとることができた。

次に、人口の集中する地域（都道府県）と住みよさランキングに入っている都道府県が一致していないということに気付いた。「なぜ、住みよいとされる地域に人口が集中していないのだろう」ということが生徒の疑問となった。そこから、「日本の人口はなぜ大都市に集中するのだろうか」という課題につなげることができた。

⑥ 授業を終えて

提示された資料一つ一つの情報の取り出しはもちろんだが、資料それぞれを関連させて、「住みよいとされる地域」と「人口が集中する地域」が異なることを見出し、「なぜ、日本の人口は大都市に集中するのだろうか」という意外性を生かして、新たな疑問を導き出すことができた。発想力を高めるためには有効な資料提示であったといえる。

指導例２　グループ学習を通して、論理力を育む。

① 単元名　３年　現代社会の歩みと私たちの生活　社会の変化と私たちの生活

② 本時のねらい

ア 少子高齢社会の問題点がわかる。

イ 少子化対策について考え、分かりやすく説明することができる。

③ 読解力向上の視点

【論理力】話し合いにおいて、根拠を明らかにして考えを述べる。

④ 読解力向上のための工夫

学習過程における工夫

少子化をくい止めるための対策を少人数グループで話し合う。話し合いの中心にはホワイトボードを置き、話し合った内容をまとめて書く。既習事項や各種資料を参考にしながら考えを出し合った。

⑤ 展　開

現在の日本の少子化の現状を理解し、少子化が進んだ時の問題点を全体で考えたあと、「現在の少子化傾向を食い止めるにはどんなことをすればよいか」という学習課題を設定して、話し合った。

最初は一人でワークシートに考えを書き、その後に少人数グループで話し合った。グループの人数は 3～4 人。ホワイトボードセット（ボード、ペン 3 色、イレーザー）を各班に 1 セット準備した。この時、班の中で 1～4 の番号を決め、それぞれ 1 司会者、2 準備する人、3 記録、4 片付けなどの係を割り当てた。

また、グループには「何番の人があたっても発表できるようにしておく」こともはじめに説明しておいた。こうすることによって、誰もが意識を持って課題に取り組むことができると考えた。グループ毎に出された意見は、教師側から番号を指名した生徒を中心に発表させた。発表の形態はグループによって様々で、一人で発表するところもあれば全員が前に出て発表するグループもあった。

⑥　授業を終えて

出された意見としては、既習の中国の「一人っ子政策」から「三人っ子政策」や 3 人目の子どもからは教育費の援助や報奨金を与えるという考え等が多かった。中には、考えが飛躍しすぎるものもあったが、それらについては深く取り上げたり、否定したりしないで、とに

かく協力して多面的に考えが出せたことや、考えを根拠を示しながら発表できたことを高く評価した。